

令和5年度第3回千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会

議事概要

【篠田主幹】

- ・千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会設置要領第4条第2項の規定により、座長は会議の議長を務めることとされておりますので、進行を林座長にお願いいたします。

【林座長】

- ・議題について、事務局から説明をお願いします。

【立和名室長】

- ・（事務局から資料についての説明）

【林座長】

- ・本日は2章に重点をおきたいが、まずは1章について意見を頂きたい。

【瀬能委員】

- ・8ページの社会環境の変化について。資源の大量消費と自然環境の悪化などは別物。自然環境の悪化や生物多様性の損失は大項目にするべきだと思う。外来生物の問題も入れるべき。

【稲庭委員】

- ・この問題はSDGsがかなり関わってくる。国際的な理念として掲げられたことが世界的にも大きい変化。SDGsはもっと大きく掲げてよいのではないか。

【林座長】

- ・ここは適宜箇条書きでもいいので、見やすくまとめていただきたい。

【栗原委員】

- ・社会情勢の変化は、どこが起点になるのか。千葉県の博物館設置構想策定時の昭和48年と比べると、市町村立博物館は増加しているが、ここ数年は減少傾向だと思う。また、市町村立博物館とあるが、私立は含まれないのか。はっきりと整理した方がよい。

【立和名室長】

- ・ 県立博物館の役割にも関わってくるのでここの整理は重要と認識している。例えば、県の博物館資料救済ネットワーク等は私立館も一緒に運営しているので、入れるようにしたい。

【駒見委員】

- ・ 学びの多様化という文言が分かりにくい。言葉を変えてはどうか。また、千葉県方式（県立博物館の分散型配置）が、どんどん集約されて縮小されているような印象をもってしまっているので、中央博物館が中心となって市町村も含めたネットワークを作るとするのがもっと前面に出た方がよい。

【立和名室長】

- ・ 千葉県方式は当時、国内でも注目された博物館施策。後退としたと思われぬよう意識して修正する。

【駒見委員】

- ・ 千葉県博物館協会についても入れ込むと良い。

【立和名室長】

- ・ 千葉県博物館協会の現在の事務局は中央博物館であるし、本年度は全国博物館大会も千葉で実施された。その点は明記したい。

【林座長】

- ・ 8 ページの（2）に「県立館を取り巻く環境の変化」とあるが、県立博物館だけなのか。「千葉県の博物館を取り巻く環境の変化」とした方がよいのではないか。
- ・ この資料が誰に向けられたものなのかがわからない。行政用の資料なのか、もっと多くの人に見てもらうための資料なのか。

【立和名室長】

- ・ 行政と県民両方に向けた資料である。

【岡田スポーツ・文化局長】

- ・ 14 ページ以降の「これからの県立博物館」につなげるための情勢変化という位置づけで

県立館という言葉を使ったが、「千葉県の博物館を取り巻く環境の変化」に修正したい。

【林座長】

- ・第2章は何か意見はあるか。非常にすっきりしたと思う。ただ、全体的に視点が県内に向きすぎているように思う。千葉県立博物館は日本全体の宝でもある。日本全体から見た博物館というのがもっと出てもよい。

【瀬能委員】

- ・17 ページについて。「P.6 再掲」とあるが、構成がわかりにくい。

【立和名室長】

- ・改善する。

【林座長】

- ・18 ページの目的そのものも千葉県中心になっている気がする。もう少し日本全国という視点をもてないだろうか。

【赤池課長】

- ・県立の館であるので、県としてコンセンサスを取るためにも県の視点は必要。グローバルの視点は目的の後段に入れた。

【瀬能委員】

- ・実際に、千葉を中心に活動を行うべきだと思う。ただし、千葉を理解するためには全国レベルで地域（千葉）を見る、全国レベルでの地域（千葉）を理解するためには、世界レベルでという段階的な活動が必要である。

【林座長】

- ・21 ページの目指す姿が目的から導き出されたものになっていない気がする。

【亀田委員】

- ・県に対して説明するためにも、千葉を国内外に発信していくという方向で記載できるとよいのではないか。科学の発展や社会の進歩なども千葉県に寄与するように記載できればと思う。

【栗原委員】

- ・ 目指す姿は、千葉と世界できれいになったと思う。ただ、「世界に拓く博物館」に千葉という文言がない。千葉から国内外に発信といった書き方がよいのでは。18 ページの目的もこのままでも読めるとは思うが、千葉からという言葉が入ればよりよいと思う。

【立和名室長】

- ・ 千葉を第一義とする、その点は重要。ただ、何が実現できるか、どのように世界に広がっていくか、うまく入れ込みたい。

【稲庭委員】

- ・ 18 ページの目的の社会の発展に寄与する、のところについて「共生社会」とするのはどうか。言葉を加えるだけで、いろいろな意味を内包出来ると思う。

【瀬能委員】

- ・ 18 ページは大まかに書いてもいいと思う。もっと後ろの事業展開あたりで細かく書けばよいのでは。千葉から広がりをもつところが担保されることが一番重要だと思う。

【林座長】

- ・ 千葉に密着するとともに、もっと広く貢献することが全体を通して示されると良い。

【瀬能委員】

- ・ 19 ページの評価の部分はもっと具体的に記載した方がよい。少なくとも博物館の3つの根幹事業（収集保管、調査研究、展示・教育普及）れぞれに対する評価があるというようにすべき。運営は「事業」ではないため、また別に評価があつてしかるべき。

【立和名室長】

- ・ 評価の方法はまだ定まっていないので、このような書き方になっている。この点についても今後御検討いただく予定である。

【林座長】

- ・ 現時点でわかっているものはきちんと書いていただけるとよい。
- ・ 20 ページのコンセプトはどうか。

【阿児委員】

- ・下の図がふわっとしている。もっと意識して、千葉というローカルから日本、世界へ、そしてそれを還元してくるという絵になるとよい。段階を追って広がっていき、ローカルとグローバル両方の視点を持つことがうまく表せるとよい。コンセプト図は慎重に作った方がよい。

【立和名室長】

- ・検討する。

【林座長】

- ・21 ページの目指す姿の右側に千葉という言葉はどう入れ込むべきか。

【栗原委員】

- ・文中でもタイトルでもよい。

【立和名室長】

- ・博物館と相談し、庁内で調整する。

【瀬能委員】

- ・目指すものは大きい方がよいが、能力以上のことを求めると評価の段階で困ることになるので注意したい。千葉と世界を同じレベルにするのは難しいのでは。ここは、千葉と世界の2つに大きくわけるのではなく、土台が千葉にあって、その上に日本、世界につながるという3段階にした方が現実的ではないか。

【林座長】

- ・2つに分けて書いてしまうのがよくないとなると、右側の「世界」の部分は削ることになってしまうので、どうだろうか。

【立和名室長】

- ・千葉のことを第一義に考えつつ、世界にも目を向けるような展開が望ましい。両方を意識するという意味で2つにしている。

【林座長】

- ・この2本立てでおかしくないと思う。

【亀田委員】

- ・最先端の視点でも国際的な研究にしても千葉を根底とすることは多くあると思うので、ここに書かれているのは良いと思う。ただ、ローカルとのつながりがみえることも大切。

【栗原委員】

- ・国際レベルではなく、国際的な動向や国際的な潮流といった文言を使うと良いと思う。

【林座長】

- ・22 ページはどうか。

【瀬能委員】

- ・黄色丸で5つに分けている部分の、下の補足文の意味がわかりにくいものがある。

【駒見委員】

- ・それぞれ、24 ページ以降に細かく出てくるので、削除してもよいと思う。

【阿児委員】

- ・つながりという視点が唐突に出てきたように読める。

【立和名室長】

- ・説明文でその要素を入れていきたいと思う。

【阿児委員】

- ・もう少し接続性があった方がよい。

【亀田委員】

- ・大切にする価値観の「つながり」は後半まで出てくるが、「フィールド重視」が出てこないなので、事業展開にどう反映するのか、入れた方がよい。

【瀬能委員】

- ・ 下の5つの丸のところ。フィールド重視の文言は不要ではないか。
- ・ 26ページの運営体制は、23～25ページとは分けた方がよいのではないか。

【林座長】

- ・ 運営体制を2-3-5にして、別枠にするのがよいと思う。

【瀬能委員】

- ・ 24ページにレファレンスサービスの強化とあるが、これは研究ではない。調査研究の具体的なことを書くべきであって、レファレンスサービスは展示・教育普及ではないか。収集保管なども項目違いがあると思う。カテゴリズをしっかりと考えてほしい。

【立和名室長】

- ・ もう一度全体をしっかりと見直すこととしたい。

【稲庭委員】

- ・ 展示・教育普及のところ。今まであまりミュージアムを利用していない層などにリーチするという部分は、今までの展示教育普及の考え方から一歩外に出ていく必要がある。利用者はどういう人なのかなど今の社会をよく知っている専門性が必要。21世紀のミュージアムは、エンゲージメントをつないでいくことが大きく求められている。展示・教育普及だけだと20世紀型のものしか想像できないので、さらに外側とのつながりを4番目として柱にしてはどうか。この視点でも専門性のある人材の配置などが必要になる。

【瀬能委員】

- ・ 3つの柱以外に新たに柱を立てると、これまでの前提が変更になってしまう。3つの中に入れ込むのがいいのでは。

【稲庭委員】

- ・ 展示教育普及のタイトルにさらにもう1個、中黒でつけるか。

【立和名室長】

- ・ 21世紀型ミュージアムの視点はとても大切と認識している。実施計画等には反映させていきたいと思うが、この計画は3つの柱で整理することにしてしまっているため、現段

階では3つの中に落とし込むことさせていただきたい。ただ、これからの視点としては踏まえていきたい。

【亀田委員】

- ・新しい人材が必要という話は26ページに入れるべきだと思う。これから目指すものを実現するためには、人材や設備の確保、予算も必要。事業を展開するにあたって必要なものはここできちんとおたておくべき。アーカイブ化などは専門性が必須であるとか、設備の老朽化について言及するなど。

【林委員】

- ・横断的に対応可能な体制作りを目指すなら、人材確保は最も重視すべき点。

【稲庭委員】

- ・東京都は、常勤で社会共生担当と教育普及の担当が置かれる。

【染川委員】

- ・東京都は先進的な取組を行っている。

【瀬能委員】

- ・運営体制を事業の一環としてまとめるのは違和感がある。そもそも事業ではなく、事業を支えるもの。実際の事例をイメージして考えると上手く落とし込めると思う。

【立和名室長】

- ・人事や組織などの体制作りには庁内の調整も必要なので、この計画にはっきりと記載出来ない点が多い。しかし重要な点であるのは間違いないと認識している。

【林座長】

- ・これはペンディングするのがいいかと思う。

【駒見委員】

- ・県内博物館のネットワークの拠点となるという部分には、千葉県博物館協会と連携といった文言があるとよいと思う。

【林座長】

- ・全体的に計画の面白みがなくなった感がある。展示にしる教育にしる面白さがないといけない。前回の資料にあった「千葉の魅力をみつけ、伝え、残していく」「多彩な面白いをとどける」を削除した何か理由があるのか。

【立和名室長】

- ・前回の議論を踏まえた上での変更である。目指す姿をローカルとグローバルで整理し、この中に落とし込んだ。

【林座長】

- ・おもしろいという考え方は非常に重要で文言はよく考えてみてほしい。

【立和名室長】

- ・各委員からいただいた意見を元にこの後の作業で修正していく。委員の方には再度確認いただきたい。今後、パブリックコメントを実施しつつ、計画自体は年度末の公開に向けて準備を進める予定である。